

## ムクドリ

スズメとハトの中間ぐらいの大きさと、全身黒っぽい、白い顔とオレンジ色のクチバシが目立つ鳥です。全国に広く分布し、一年中見られます。平地の人里近くに生息する鳥で、樹木が所々にあるような村落地や市街地に多い鳥です。餌は、昆虫やムクノキ、エノキなどの木の实や熟したカキなどです。

繁殖期には、つがいで生活し樹洞（じゅどう）を巣として利用しますが、人家の屋根のすき間や戸袋を利用することもあります。巣箱も多く利用します。

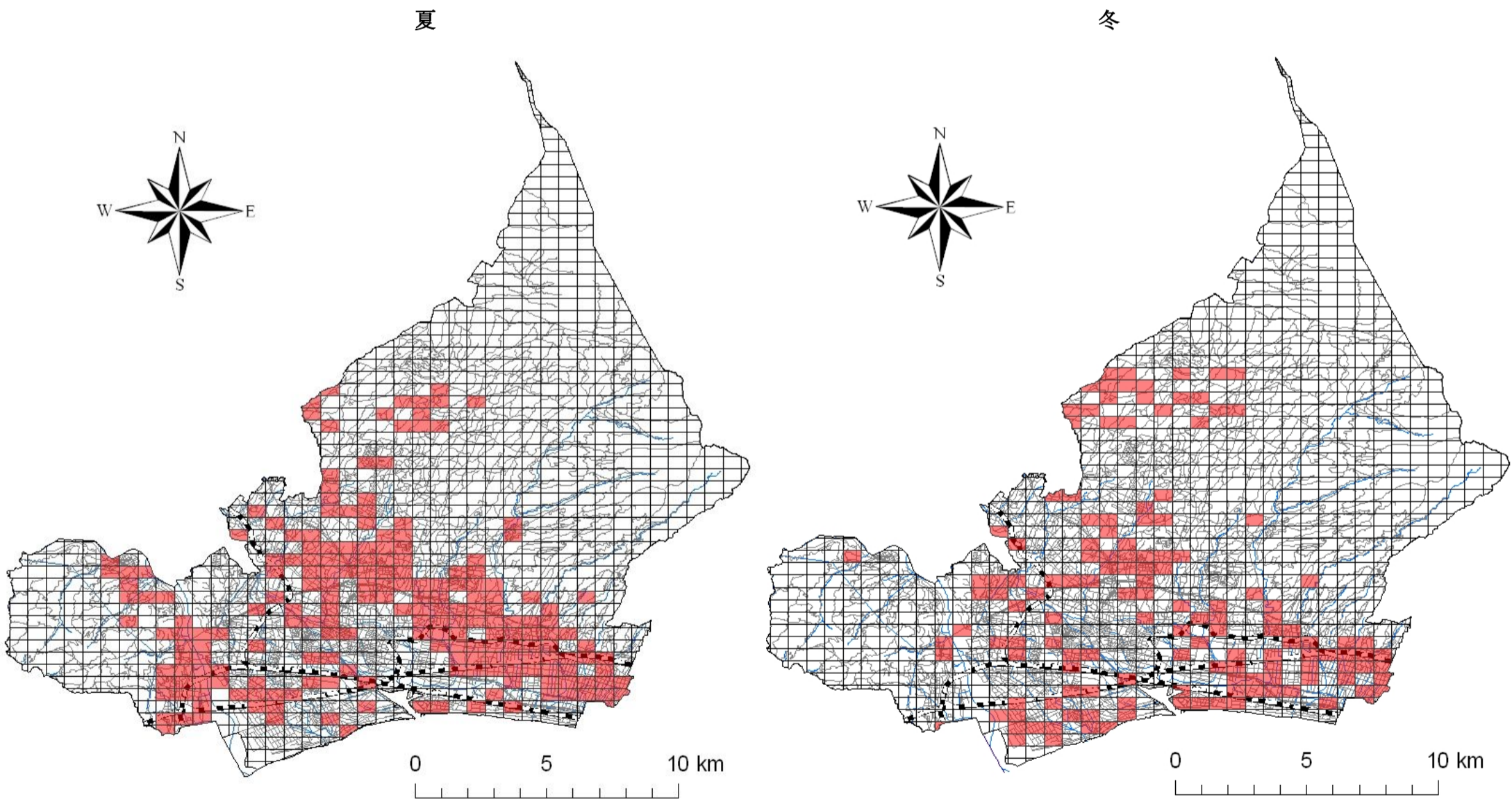
繁殖期が過ぎた秋から冬にかけて、群れになって生活します。夜になると、街路樹や神社の森、竹やぶなどで集団ねぐらを作ります。数千羽や数万羽になるねぐらもあります。集団ねぐらをなぜ作るのか、まだよく分かっていません。一つの理由は、集団でいるとタカやフクロウなどの天敵から身を守るからだと考えられています。もう一つは、エサのありつけなかったムクドリが、集団ねぐらの中で餌をたっぷり食べてきた元気なムクドリの後を、次の日の朝追いかければ、エサが食べられるためだと考えられています。



### 富士市の現状

海岸地帯から、山地まで市内全域に分布しています。かつては、冬季に市役所前のクスノキの街路樹を集団ねぐらとして利用していました。しかし、街路樹が大きく剪定（せんてい）されたため、今では中央公園に集団ねぐらが移動しました。夕方になると、あちこちから数羽、数十羽単位で集まってきて、回りの電線にびっしりと止まっています、鳴き声も騒々しいくらいです。暗くなると一斉に飛び立ち中央公園の樹木で、一晩を過ごします。

### ムクドリを確認したメッシュ



※ 平成18年より調査しているため、日本測地系の2分の1標準地域メッシュを使用しています。